

【笠間市】

3.校務DX計画

1.現状と課題

笠間市では、平成22年度に「グループウェア」「学籍・名簿管理」「出席管理」「成績管理」「保健管理」「教育計画管理」「個人管理」といった校務に関する様々な機能を提供する「統合型校務支援システム」を導入することで、教職員の負担軽減および校務の効率化を図ってきた。しかしながら、近年はシステムを閉域網で稼働させ、校務端末の設置場所を職員室に固定していることが、校務におけるクラウドサービスの活用が進まない一因となっており、GIGAスクール端末で蓄積した学習データ、いわゆる「ビッグデータ」の校務システムとの連携ができず、大きな課題となっており、クラウドサービスを活用したペーパーレス化を阻害する要因となっている。

2.課題の解決に向けて

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」を参考に、笠間市で導入が進んでいない以下の項目について重点的に取り組み、学校業務効率化による教職員の業務環境改善を推進していく必要がある。

①教員と保護者間の連絡の完全デジタル化

現在、全校にて保護者連絡ツールを導入しており、学校からのお便りや通知の配信に利用している。また、アンケートフォームや施設予約、面談予約をクラウドサービスを活用することにより保護者連絡の完全デジタル化を推進する。

②学校内の連絡のデジタル化

職員間の情報共有や連絡にクラウドベースのコミュニケーションツール（チャットや校内SNS等）を取り入れ、コミュニケーションの活性化及び、アンケートツールの使用等による効率化を図る。

③教育委員会所管の業務のデジタル化

学校との各種事務手続き（資料配布や回覧等）についてもクラウドサービス活用によるペーパーレス化を推進し、スピーディな周知と文書収受を可能にする。

④次世代の校務デジタル化に向けた環境整備

ネットワーク統合と次世代型校務支援システムの導入により、ロケーションフリーの環境を構築する。都道府県域の共通システムの導入により、学校間のデータ連携環境を積極的に推進する。

3.導入スケジュール

令和7年度	閉域網のシステムのクラウド化（校務支援システム含む） 校務のロケーションフリー化 生成AIの導入
令和8年度	クラウドサービスの活用推進、ダッシュボードの構築
令和8年度以降	都道府県域の共通システムの導入に順次移行